

大阪府では、2026年10月末に竣工100周年を迎える登録有形文化財「大阪府庁舎本館」について、親しまれる庁舎として活用するため、東面(大阪城側)のライトアップを開始。鮮やかな色彩と質の高い白色を表現可能なフルカラーLED照明器具を採用し、歴史的な建築デザインを華やかに演出しています。

大阪府庁舎本館は1926年(大正15年)竣工。現役で使用される都道府県本庁舎として最も古く、登録有形文化財に指定されています。当時の官庁建築に多かった勾配屋根ではなく水平の陸屋根を採用。花崗岩と白色擬石タイルによる明るい外観や窓廻りの直線、左右対称の構成に、簡潔で合理的な表現が見られ、日本におけるモダニズム建築の先駆けとなりました。



【物件概要】
所在地：大阪府中央区大手前2丁目1-22
延床面積：24,829.70㎡
構造・規模：RC造、一部SRC造・地上6階、地下1階建
設計：大阪府
施工：電気株式会社岡田電気
演出プログラム作成：東芝ライテック株式会社
屋外照明設備完工：2026年3月



ライトアップ常時点灯(白色) フルカラーLED照明器具①が下方から上方へ大きな「面」を照射しスポットライトタイプの②が細部を照射

フルカラーLED照明器具により、動きのある光のプログラム、季節に合わせたライトアップを実現。

大阪府庁舎本館のライトアップは、日没から22:00までの白色の通常点灯に加えて、1時間に1回、毎時00分から「季節の色」のプログラムを実施。毎時1回のプログラムは、通常点灯の日に限り実施され、冒頭1分30秒ほどに動きを加えた光の演出があり、大阪城公園・天満橋周辺のイベントや季節などをイメージした12色が、年間を通じて季節感を表現する内容となっています。また、大阪光のまちづくり2030構想を踏まえ、「光の暦」の「特定日」に基づくテーマ性のある点灯や、府の施策啓発を目的としたカラーライトアップも行われる予定です。

こうした多彩な光の演出を実現するため、照明器具には混色の精度が高く演出力に優れたフルカラーLED照明器具を採用。下方から上方へ「面」を照射するアッパーライトには高出力なLED投光器タイプを使用し、また正面玄関や柱などの細部を余すところなく照射するためスポットライトタイプの器具も併用しています。器具の配置は、古典的で均整のとれた3層構成の建築様式に合わせて「基部・中間部・頂部」を意識した3段階の高さに設置し、「面」に対する照射角度を綿密に設計することで、ムラなく美しいライトアップを実現しています。



フルカラーLED照明器具
(左) ① ReachElite High Punch IntelliHue 100 Powercore gen3
(右) ② ColorBurst IntelliHue Powercore gen3



ライトアップ毎時点灯 季節の色(2月：紅梅)



カラープログラム例 特別点灯(ひなまつり)



カラープログラム例 特別点灯(万博カラー)

主な掲載器具一覧				
設置場所	器具名(品種名)	形名	台数	備考
屋外	フルカラーLED照明器具 (カラーキネティクス・ジャパンブランド)	① ReachElite High Punch IntelliHue 100 Powercore gen3	12	消費電力:100W
		② ColorBurst IntelliHue Powercore gen3	25	消費電力:31.3W